

構築会兵庫支部 平成11年度見学会の概要

平成11年度の見学会は、梅雨の谷間の晴天に恵まれた7月上旬に開催、参加者35名がバスに揺られて兵庫県西部へと繰り出しました。

最初に訪れた神谷ダムは、兵庫県企業庁が手がける水道用水供給事業の一環として、西播磨地域の水道水の安定供給のため、二級市川水系神谷川に建設中の中央コア型ロックフィルダムです。良質なダム堤体材料が周辺で採取できることから、このダム形式を採用したそうです。堤高79m、堤長303mの規模を持ち、ダム貯水池は揚導水管路で約3km西の船津浄水場と結ばれて、市川の流量が多い豊水期は市川からポンプで揚水して貯留し、渇水時には逆にダムの貯流水を浄水場まで導水して利用されます。平成12年度の完成に向けて工事が進んでおり、陽光に照りかえるロックフィル式の堤体が雄大な姿をみせていました。

次に播磨科学公園都市へ移動し、大型放射光施設Spring-8と粒子線治療センターを見学しました。全国的にも有名なSpring-8は、日本原子力研究所と理化学研究所が建設した世界最高性能の放射光を生み出す施設で、Super Photon ring-8 GeV に由来します。平成9年に供用開始されており、そのスケールの大きさに圧倒されました。放射光とは、電子を光速近くまで加速し、磁場により進行方向を曲げたときに発生する細く強力な電磁波のことで、大学、公的研究機関や企業等のユーザーに提供されています。Spring-8は国内外の産学官の研究者に開かれた共同利用施設で、今後、様々な分野における研究の進展が期待されます。

粒子線治療センターは、人類の悲願である“がん”撲滅をめざして兵庫県が建設中の施設です。高エネルギー原子核の流れである粒子線を治療に用いることで、従来の放射線治療に比べ、がん細胞に対するより高い治療効果が得られ、同時に正常組織に対する障害を減らすことが可能になるそうです。現地では照射治療棟が完成間近で、昨年には病院棟も着工されており、がん治療に新しい光をつなぐ施設の一日も早い完成を願わずにはおれませんでした。

ご来賓として、構築会の真塚達夫会長、土木工学専攻の松井保教授、建築工学専攻の吉田勝行教授がご参加くださり、遠距離を移動した後の懇親会では大学の近況や見学地の話題などが尽きることなく、有意義かつ楽しいひとときを過ごしました。

